

第1期中期目標期間業務実績に関する評価書（事務局案）に対する意見

全体評価への意見（中村委員長）

大項目(8区分)毎の事業単位と指標単位の5段階の評価レベルの年度間の推移								
<第1期中期目標期間の業務実績評価>								
		評価S	評価A	評価B	評価C	評価D		
		優れて順調	順調	概ね順調	やや遅れ	遅れ		
大項目(8区分)		第1期評価	年度別評価					
			H26	H27	H28	H29	H30	R01
教育研究の質向上の目標								
1)教育に関する目標	A	A	B	A	A	A	A	
2)研究に関する目標	A	A	A	A	A	A	A	
3)地域貢献に関する目標	A	A	A	A	A	A	A	
4)国際交流に関する目標	A	B	B	A	A	A	A	
5)業務運営の改善・効率化に関する目標	B	B	B	B	B	B	B	
6)財務内容の改善に関する目標	B	B	B	B	B	B	A	
7)自己点検・評価、情報公開推進に関する目標	A	B	A	B	A	A	A	
8)その他業務運営に関する目標	B	B	B	B	B	B	B	

- ・大項目8区分のうち「国際交流に関する目標」においては、6年間のうち3年目以降に、また「第3 財務内容の改善に関する目標」においては、6年間のうち最終年度に、評価レベルがBからAに転じているが、今後の第2期に向けて評価の高まりが期待されるところである。
- ・なお、第1期最終年度の終了期から国内外を襲った新型コロナウイルス禍については、本評価書では「第5 その他業務運営に関する目標」において、安全管理に関して「危機管理対策本部を設置したこと」に触れているが、長岡造形大学としての第1期中期目標期間 業務実績報告書（資料2-3）の序文に述べられているように、「新型コロナウイルスの世界的感染拡大が、今後の社会経済のありように大きな変容をもたらすと考えられる中で、まさにデザインが科学技術や人文知と連携して心の人間的豊かさを探究してゆくことが求められている」とのメッセージについても第2期への素地として本評価書で触れられてもよいかと思えます。

評価書案全体への意見（山崎委員）

- ・適正

評価書案全体への意見（草間委員）

- ・全体的にはこれでよろしいかと思えます。
- ・令和5年どの新学科設置に向けての教育研究組織の見直しや大学院でのカリキュラム変更等今後にまた期待したいと思えます。

評価書案全体への意見（並木委員）

- ・事務局案で良いと思えます。
- ・長岡の公立大学として、これからも地域にそして全国にその魅力を発信していただければと思えます。

評価書案全体への意見（榎委員）

- ・第1期中期目標期間の評価は妥当であると考えます。
- ・しかし、理事長の回想文にも述べられている通り、まさにVUCAの時代であります。コロナウイルス感染症や災害など、いつ何が起きても不思議ではありません。今回のコロナ対応は迅速かつ安全に対応できたと考えますが、再度、中期目標の一項目として、事業継続計画書を整備していただきたいと考えます。（企業版BCPです。）
- ・今ひとつは、大学の運営評価メンバーに女性を加えられ多面的な学生フォローも念頭に置くべきと考えます。
- ・更にもう一点は、デジタル化の推進を加速すべきと考えます。

VUCA: Volatility (激動)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (不透明性) の頭文字をつなげた、予測困難な現在の社会を表現した言葉

BCP: Business Continuity Planning 災害等の緊急事態における企業や団体の事業継続計画